

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択科目)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
キャリア教育Ⅰ、キャリア教育Ⅱ、保育士養成課程科目、教職課程科目（幼稚園教諭二種）				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
子育て支援プロジェクト				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
田村田・岡泉志のぶ・高橋登美子	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
<p>本授業では、社会人になってから役立つ基礎的知識や態度を身につけ、社会で活躍する際に必要な即応力やコミュニケーション能力などの資質向上を目指す。この演習を通じ、学生自らが保育者として必要な専門的知識や技術の必要性を考え、自己実現に向けた専門性の習得を図るとともに実践に繋がられるようにする。</p>				
授業の目標				
<p>①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑥保育者としての自覚を持ち、専門的スキルを身につける。</p>				
授業の方法				
<p>保育士養成課程の各クラスを主として、クラス担任が出欠、成績管理を行う。外部講師の講話の他、講義を含めた全体での演習では、アクティヴ・ラーニングやプレゼンテーション等、能動的な学習方法を取り入れる。また、保育者としての専門性、資質向上を目指し、自己実現に向けた計画を立て、実践できる力を身につけられるようにする。毎回日直を配置して、授業前に担当教員の指示を受ける。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)問題解決のために、個人および集団のスキルを活用することができる。 (5)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができるようになる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 授業概要と評価に関する説明（全体45分：クラス指導45分）			
第2回目	自己分析Ⅰ ー過去・現在の振り返りー			
第3回目	自己分析Ⅱ ー未来のイメージ・自己PRー			【レポート課題：10点配点】
第4回目	履歴書の書き方Ⅰ ー作成上の留意点と自己PRー			
第5回目	履歴書の書き方Ⅱ ー履歴書の完成ー			※履歴書提出
第6回目	外部講師の講話 ー現場で活躍する保育者の講話ー（全体90分）			【レポート課題：10点配点】

第7回目	地域貢献活動としての子育て支援Ⅰ（クラス別90分）	
第8回目	教育実習オリエンテーション（全体90分）	
第9回目	保育行事体験Ⅰ（全体90分） ※実習により後日補講	
第10回目	保育行事体験Ⅱ（全体90分） ※実習により後日補講	
第11回目	保育実習ⅡⅢオリエンテーション（全体90分） ※実習により後日補講	
第12回目	教育実習の振り返りと課題解決	【レポート課題：10点配点】
第13回目	面接試験対策Ⅰ ー心構えと身だしなみー	
第14回目	面接試験対策Ⅱ ー想定問答と模擬面接ー	
第15回目	私のキャリアプランニング（全体90分）	【レポート課題：10点配点】
事前・事後学習	毎回日直を配置し、担当教員の指示を受ける。レポート課題については、事後学習が必要となる。	

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	ディスカッション時の積極的な姿勢、講話や他グループの発表時における授業態度を評価する。
レポート	40%	各回の主題に応じたレポートを提出して評価する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	30%	日直業務・発表内容・態度を各教員で採点する（合計30点配点）。
その他		

教科書と参考図書

参考資料は適宜指示、配布等をする。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、自己実現に向けて授業に臨むこと。マナーを守り、課題を必ず提出すること。日直は（全員揃って）授業前に担当教員の指示を受ける。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I (栄養士) Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
野中 春奈 山崎 敬子		授業中に指示します	授業中に指示します	授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑥栄養士の資格を目指す学生として幅広い基本知識を習得することができるようにする。 ⑦栄養士の資格を目指す学生として、コミュニケーション能力を養い状況判断ができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)給食施設見学によって現場での栄養士の仕事を具体的に考えることができる。 (5)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス (2年生としての心構えと栄養士の仕事)			
第2回目	各分野における栄養士の仕事の実際① (病院、学校)			
第3回目	各分野における栄養士の仕事の実際① (福祉施設・幼稚園・保育園)			
第4回目	各分野における栄養士の仕事の実際① (行政、企業 (商品開発を含む))			
第5回目	卒業研究の進め方、コース別希望調査、コース別担当者との面談①			
第6回目	卒業研究の進め方、コース別希望調査、コース別担当者との面談②			

第7回目	食の安全等に関する外部講話（栃木県保健福祉部生活衛生課 担当者） 課題① 提出日第8回目の授業	
第8回目	先輩栄養士の講話①（学校） 課題② 提出日第9回目の授業	
第9回目	先輩栄養士の講話②（病院） 課題③ 提出日第10回目の授業	
第10回目	先輩栄養士の講話③（保育園） 課題④ 提出日第11回目の授業	
第11回目	先輩栄養士の講話④（高齢者施設） 課題⑤ 提出日第12回目の授業	
第12回目	平成30年度卒業研究発表について（映像）	
第13回目	研究内容についての調査、グループディスカッション	
第14回目	研究内容案の発表 課題⑥ 提出日第15回目の授業	
第15回目	発表予備日およびまとめ	
事前・事後学習	卒業研究に向けて図書館やITを活用し調べ学習を行う。発表資料を収集する。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	60%	10点満点の課題を6つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	10%	グループディスカッションでの内容をまとめて発表する。（決められた時間内に協力して内容をまとめている、わかりやすく明確に説明できている場合は10点とする。）
その他		
教科書と参考図書		
参考書は講義中に適宜指示する。		
履修上の留意点・ルール		
積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I (介護福祉士) Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田 晴美、他	福祉棟 2F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション / 履修指導			
第2回目	就職活動に係わる書類の準備・履歴書の書き方		【社会福祉士フィールドと合同】	
第3回目	履歴書の書き方	*課題①② 履歴書・自己紹介書【社会福祉士フィールドと合同】		
第4回目	高齢者や障害者が使いやすい用具について考える学習 (発表会)			
第5回目	小論文指導 (60分模擬試験)	*課題③ 小論文	【社会福祉士フィールドと合同】	
第6回目	キャリア講演会 (施設長・人事担当者)	*課題④ 感想レポート【社会福祉士フィールドと合同】		

第7回目	面接の受け方・模擬質問	*課題⑤ 模擬質問	【社会福祉士フィールドと合同】
第8回目	小論文指導（模擬試験の添削含む）		【社会福祉士フィールドと合同】
第9回目	集団模擬面談	*課題⑥ 面接の振り返り	【社会福祉士フィールドと合同】
第10回目	個人模擬面談	*課題⑦ 面接の振り返り	【社会福祉士フィールドと合同】
第11回目	求人票収集と就職希望先の分析・研究		【社会福祉士フィールドと合同】
第12回目	進路個別面接		
第13回目	進路個別面接		
第14回目	進路個別面接		
第15回目	まとめ / 夏休みの過ごし方や国家試験に関する説明		
事前・事後学習	授業でわからなかった点は、各自調べたり、教員に質問したりすること。 普段から挨拶や言葉づかい、態度、書類の書き方等に気をつけること。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	30%	S評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③演習時は仲間の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。④積極的に取り組んでいる。
	レポート	70%	10点満点のレポート課題を7つ提出する。S評価は、①各設問に適切に答えている。②自由記述は8割以上記入されている。③学びや気づきなど、自分の考えが具体的に記述されている。④提出期限を守っている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験		
	発表内容（態度含む）		
	その他		
教科書と参考図書			
平成30年度 佐野日本大学短期大学 進路支援資料集 『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入） その他、必要に応じて適宜資料を配布する。			
履修上の留意点・ルール			
●実務経験 和田（職種：看護師、職歴：通算10年）、学外講師（福祉施設の業務に携わる実務者） 進路の実現に向けて、学生支援課を活用しながら、積極的に行動すること。 受講するマナー・態度として、飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。			

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I (医療事務・メンタルヘルス) Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(医療秘書技能検定対策講座)	医療秘書演習 I・IIの履修者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
メディカルクラーク、ドクタズクラーク				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
電子カルテ I・II				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
古川 貴子 小竹 仁美		講義棟2階・講義棟3階	授業中に指示します。	授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
<p>①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。</p> <p>②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。</p> <p>③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。</p> <p>④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。</p> <p>⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。</p> <p>⑥医療秘書としての役割と必要性について理解し行動できるようにする。</p> <p>⑦専門職として職場でのコミュニケーション能力を身につけることができるようにする。</p> <p>⑧医療秘書技能検定2級に合格できるようにする。</p>				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
<p>(1)自分の職業生活を設計できる。</p> <p>(2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。</p> <p>(3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。</p> <p>(4)医療秘書としての知識を身につけることができる。</p> <p>(5)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 医療秘書とは (古川)			
第2回目	医療秘書の役割と必要性 (古川)			
第3回目	医療機関の組織と理解 (古川・小竹)			
第4回目	基礎薬理 ① (古川)			
第5回目	基礎薬理 ② 小テスト I (古川)			
第6回目	臨床薬理 ① (古川・小竹)			

第7回目	臨床薬理 ② (古川)	小テスト II
第8回目	ケースワーク I (古川)	
第9回目	ケースワーク II (古川・小竹)	
第10回目	ケースワーク III (古川)	(ケースワークの感想をレポート提出)
第11回目	傾向と対策 1 (古川)	
第12回目	傾向と対策 2 (古川・小竹)	
第13回目	傾向と対策 3 (古川)	
第14回目	傾向と対策 4 (古川)	
第15回目	傾向と対策のまとめ (古川・小竹)	小テスト III
事前・事後学習	基礎薬理や臨床薬理の作用・副作用等を理解し、わからないことはそのままにせず、ITや図書館を活用して、次回までに調べる事。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	講義者の話を集中して聞き、疑問点は主体的に質問し解決している。与えられたテーマについて仲間の意見をよく聞き、自分の考えを述べている。クラスのワークに積極的に取り組み、貢献、努力をしている。
レポート	10%	課題を提出している。内容が他者にもわかりやすくまとめてあり、自身の考えや感想を述べている。
調査報告書		
小テスト	50%	3回の小テストを行い、理解度を図る。
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他	10%	医療秘書技能認定試験 2級の合格
教科書と参考図書		
医療秘書検定 2級問題集、早見表		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験 (職種：病院総合職・医療事務 職歴：通算6年 古川) 積極的に参加し、医療秘書検定 2級の合格を目指し、マナーを守り自分で考え、課題を必ず提出すること。</p>		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I (観光ホスピタリティ) Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館 2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要となる知識・技術・望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観・役割・責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けて欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション。 進路個別面談、進路活動報告と新聞記事の活用は毎回のレポート課題として行う、キャリアデザイン(履修計画)の再考。			
第2回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、自己PRの作成:学生時代に力を入れたことについて(個別ワーク・発表)。			
第3回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、会社選びの基準について自分の価値観を確認する(個別・グループワーク)。			
第4回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決①(個別・グループワーク)。			
第5回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決②(個別・グループワーク)。			
第6回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、内定辞退の対処法(再確認)と内定礼状の作成(個別・グループワーク)。			

第7回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決③(個別・グループワーク)。
第8回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動の振り返りとキャリア・カウンセリング利用の検討(個別・グループワーク)。
第9回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決④(個別・グループワーク)。
第10回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑤(個別・グループワーク)。
第11回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑥(個別・グループワーク)。
第12回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑦(個別・グループワーク)。
第13回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動を振り返り夏休みの過ごし方について考える(個別ワーク)。
第14回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、夏休みの計画を立てる(個別ワーク)。
第15回目	進路個別面談、進路活動報告のまとめ、新聞記事の活用のまとめ。発表。
事前・事後学習	事前：進路活動状況につき、授業内で課題を共有出来るよう準備すること。 事後：授業内で共有された進路活動状況を、自らの進路活動に活かせるよう努力すること。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	進路活動報告、新聞記事の活用 各5点をそれぞれ7つ以上提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年)
 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習 I (社会福祉士) Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士フィールド 必修)	社会福祉士フィールド2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保、他	福祉棟3F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション / 履修指導			
第2回目	就職活動に係わる書類の準備・履歴書の書き方		【介護福祉士フィールドと合同】	
第3回目	履歴書の書き方	*課題①② 履歴書・自己紹介書【介護福祉士フィールドと合同】		
第4回目	電話のかけ方			
第5回目	小論文指導 (60分模擬試験)	*課題③ 小論文	【介護福祉士フィールドと合同】	
第6回目	キャリア講演会 (施設長・人事担当者)	*課題④ 感想レポート	【介護福祉士フィールドと合同】	

第7回目	面接の受け方・模擬質問	*課題⑤ 模擬質問	【介護福祉士フィールドと合同】
第8回目	小論文指導（模擬試験の添削含む）		【介護福祉士フィールドと合同】
第9回目	集団模擬面談	*課題⑥ 面接の振り返り	【介護福祉士フィールドと合同】
第10回目	個人模擬面談	*課題⑦ 面接の振り返り	【介護福祉士フィールドと合同】
第11回目	求人票収集と就職希望先の分析・研究		【介護福祉士フィールドと合同】
第12回目	進路個別面接 / オレンジリボン運動準備		
第13回目	進路個別面接 / オレンジリボン運動準備		
第14回目	進路個別面接 / オレンジリボン運動準備		
第15回目	まとめ / 夏休みの過ごし方や国家試験に関する説明		
事前・事後学習	授業でわからなかった点は、各自調べたり、教員に質問したりすること。 普段から挨拶や言葉づかい、態度、書類の書き方等に気をつけること。		

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	S評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③演習時は仲間の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。④積極的に取り組んでいる。
レポート	70%	10点満点のレポート課題を7つ提出する。S評価は、①各設問に適切に答えている。②自由記述は8割以上記入されている。③学びや気づきなど、自分の考えが具体的に記述されている。④提出期限を守っている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

平成29年度 佐野日本大学短期大学 進路支援資料集
『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）
その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

●実務経験 吉田（事務、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、職歴：14年）（実習先の業務に携わる実務者（施設長、人事担当者）・進路の実現に向けて、学生支援課を活用しながら、積極的に行動すること。
受講するマナー・態度として、飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机の上に置かない。やむを得ず欠席した場合は速やかに届け出を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習I Career Practicum I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
加藤 遼子	講義棟3階	授業中に指示します	授業中に指示します	
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つような基礎的知識や態度を身に付け、自己を生かす職業に就くために必要となる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業にかかわる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、無家いるのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気遣いながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役に立つような基礎的な知識や態度を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的にかかわるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので自己を振り返る機会を持ち、気づいたことを文章で表現するように心がける。				
学習の成果（学習成果）				
①自己の職業生活を設計できる。 ②自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 ③職場環境に適応し、そこでの問題を書けるするための活路を見出すことができる。 以上により、就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 進路個別面談、進路活動報告と新聞記事の活用、キャリアデザイン（履修計画）再考。			
第2回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、自己PRの作成：学生時代に力を入れたことについて（個別ワーク）			
第3回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、会社選びの基準について自分の価値観を確認する（個別・グループワーク）			
第4回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法①（個別・グループワーク）			
第5回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法②（個別・グループワーク）			
第6回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、内定辞退の対処法と内定令状の作成（個別・グループワーク）			

第7回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法③（個別・グループワーク）	
第8回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動の振り返りとキャリア・カウンセリング利用の検討（個別）	
第9回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法④（個別・グループワーク）	
第10回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法⑤（個別・グループワーク）	
第11回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法⑥（個別・グループワーク）	
第12回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決法⑦（個別・グループワーク）	
第13回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動を振り返り夏休みの過ごし方について考える（個別ワーク）	
第14回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、夏休みの計画を立てる（個別ワーク）	
第15回目	進路個別面談、進路活動報告のまとめ、新聞記事の活用のまとめ、発表。	
事前・事後学習	[事前] 進路に関して自分の中で考えまとめてくる。 [事後] 学んだ内容を自分なりに整理し、自分の進路に生かすためにどのようにしたらよいか考える。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	講義者の話を集中して危機、疑問点は主体的に質問し解決をしている、与えられたテーマについて仲間の意見をよく聞き、自分の意見を述べている。クラスのワークに積極的に取り組み、貢献、努力をしている。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	進路活動報告書、新聞の活用、各5点ずつで6つ以上進路活動発表資料を提出している。内容が他者にもわかりやすくまとめられてあり、自分の考えや感想を述べている。
試験	40%	学期末試験において一定の点数を取っている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、購入済み）		
履修上の留意点・ルール		
積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出締め切りを守り必ず低提出すること。欠席の場合は欠席届を提出すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア演習Ⅰ（ビジネスデザインフィールド卒業研究） Career Seminar I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし。)	ビジネスデザインフィールドの学生であること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副令	講義棟 2F	初回授業で説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
自己を生かす職業に就くために必要な知識、またその職業を介してキャリアアップしていく上で必要となる知識や技術のほか、社会人一般に望まれる基本的な態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑤短大で得たスキル・学習成果を整理し、プレゼンテーションができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークのほか、グループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。課題はキャリア形成や職場での関係構築のために有用なものを用意する。自己を振り返る機会と捉えて、自分の気づきや考えを他人に伝わりやすい簡潔な言葉で表現するように心掛けるようにして欲しい。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにすること。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)ビジネスマナーとビジネス文書作成スキルを修得し、就職活動を自主的かつ円滑に行うことができる。 以上により、就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス Eメール確認、就職活動報告、履歴書指導、読書レポートについての説明			
第2回目	個人面談（前半）	業界・会社・仕事研究 1		
第3回目	個人面談（後半）	業界・会社・仕事研究 2		
第4回目	個別ワーク 1：敬語表現	読書選択発表（前半）		
第5回目	個別ワーク 2：前向きな表現	読書選択発表（後半）		
第6回目	グループワーク：履歴書の改善方法			

第7回目	集団面接練習 1（前半）：志望動機 S P I 練習 1
第8回目	集団面接練習 1（後半）：志望動機 S P I 練習 2
第9回目	集団面接練習 2（前半）：自己 P R S P I 練習 3
第10回目	集団面接練習 2（後半）：自己 P R S P I 練習 4
第11回目	グループワーク：N A S A ゲーム
第12回目	ビジネス E メール作文練習：問い合わせ S P I 練習 5
第13回目	読書レポートその 1 発表（前半）
第14回目	読書レポートその 1 発表（後半）
第15回目	読書レポート講評 夏季休暇の過ごし方
事前・事後学習	【事前】与えられた課題に取り組むこと。特に発表者はしっかりと準備をすること。【事後】インターネットや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	60%	(受講態度3点+出席点1点)×15回。受講態度は、課題に取り組んでいるか、授業に積極的に参加しているか、によって評価する。やむを得ない事情で欠席した者には代替の課題を与える。
レポート	20%	読書レポート。基本的な作文の巧拙（文法、語彙、構成、推敲の度合い等）10点、選んだ書籍の内容紹介の適切さ（内容を正しく理解し、要点を押さえているか）10点。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	20%	志望動機、自己 P R、についての発表を各10点満点で評価する。具体的なエピソードが入っているか、聞き手にとって分かりやすい話し方が出来ているか等、をチェック項目とする。
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は必要に応じて授業の中で紹介する。

履修上の留意点・ルール

積極的に授業に参加すること。課題を必ず提出すること。その他は初回授業で説明する。